＜最新デジタル技術を用いた遺跡の調査研究とその成果の活用＞

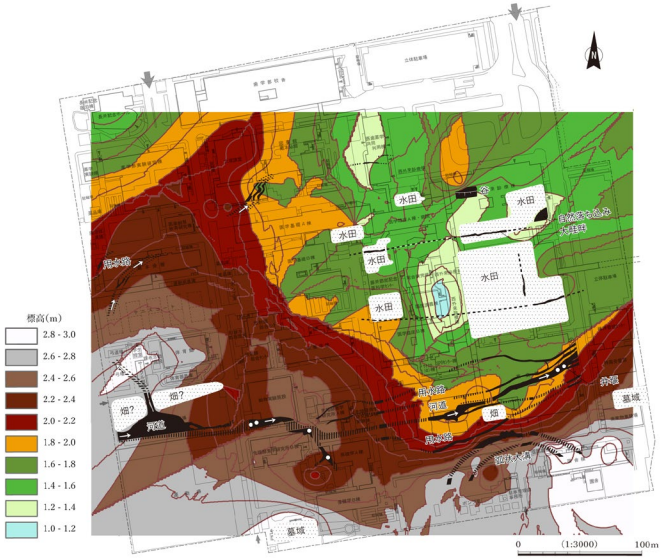
［キーワード：フォトグラメトリー，GIS，CAD］　＜准教授＞ ＜端野晋平＞

徳島大学構内遺跡の発掘調査成果

銅鐸片（弥生時代）

石組み舟入状遺構（江戸時代）

GIS・CADを用いた過去の歴史景観の復元



弥生時代初期（2500年前）の蔵本キャンパス一帯の微地形と土地利用

（1）研究の背景

徳島大学の三つのキャンパスは、すべて遺跡の上に立地しています。徳島大学埋蔵文化財調査室では1992年の設置以降、構内の再開発に伴い、発掘調査を実施し、その成果を活用した研究・地域貢献を行ってきました。蔵本キャンパスでは、縄文時代の終わりごろから近代までの幅広い時代にわたる、数多くの貴重な資料が確認され、なかでも弥生時代の始まりごろのそれは極めて豊富で、日本列島初期の農耕集落跡として、学界で注目されています。また、新蔵キャンパス・常三島キャンパスでは、近世徳島藩の武家屋敷跡が調査され、当時の社会や武士たちの生活を復元するのに貢献する貴重な資料が蓄積されています。

（2）研究の概要

現在、大学構内遺跡の発掘調査とその成果の活用を目的として、以下の二つの課題に取り組んでいます。

①フォトグラメトリーなどを用いた発掘調査技術の開発　発掘調査の精緻化・効率化、期間短縮、調査記録の再現性の確保などを目的とする新たな技術の開発を行っています。

②GIS・CADを用いた過去の歴史景観の復元　蓄積された調査記録を統合・可視化し、研究や社会貢献の場（市民講座・展示会）で活用しようとしています。

分野：歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野

専門：考古学関連

E-mail: s_hashino@tokushima-u.ac.jp

Tel:　088-656-9405

Fax:　088-656-9405

HP:　https://tokudaimaibun.jp/